



株主通信

2013

第31期

第2
四半期

Business Report 2013.1.1-2013.6.30



Inspiration for Life Science

特集

医療への貢献

～ライフサイエンスの可能性～



人と科学のステキな未来へ

コスモ・バイオ株式会社

証券コード：3386



世界のライフサイエンス研究を支援する専門商社

創立30周年を契機に、 メーカー機能を備えた専門商社として、 研究支援の更なるレベルアップを目指します。

自社開発 & 共同開発プロジェクトを推進する
コーディネータ能力に長けた専門商社へ

2013年8月、コスモ・バイオは、おかげさまで創立30周年を迎えました。

これまで私たちは、ライフサイエンスの基礎研究に携わる数多くの研究者のために“何ができるか?”を常に考え、実行してきたことで、ノウハウや人材、ネットワークなどの経営資源を積み重ねてきました。2000年のMBOによる独立、2005年の株式上場などを節目に当社の事業活動は更に活発化し、当社グループはメーカー機能を内在し、国内のみならず海外にも事業を拡大するまでに成長してきました。

30周年を契機に、今後も業界とともに成長・発展していくべく、更なるレベルアップに取り組んでまいります。



* 商品・サービスの開発・製造・販売をより一体的に行うために、2013年7月に研究用試薬類の開発・製造子会社(株)プライマリーセルを当社に吸収合併

トップインタビュー



代表取締役社長
笠松 敏明

一方、減益の主な要因は、為替が大幅な円高是正の方向に動いたためです。前期の平均79円/ドルに対して、この上半期は平均93円/ドルと円安傾向で推移し、これが利益を大きく圧迫することとなりました。しかし、当社の役割は、研究者の活動を支援するために、求められる商品・サービスを安定的な価格で供給していくことであり、為替の変動による仕入コストの上昇もありますが、できる限りは今の価格を維持していく考えです。その一方で売上拡大、付加価値の高い商品・サービスの拡充などに努めることで利益確保を図ってまいります。

当期(2013年12月期)の連結業績について



当第2四半期累計期間の業績はいかがでしたか？

当第2四半期累計期間の連結業績は、遺憾ながら減収減益となりました。

減収の主な要因は、想定以上に市場が活発さを欠く状況であったためです。当社の主要なお客様である大学・公的研究機関は、文部科学省の「運営費交付金」や「科学研究費補助金」(科研費)等を研究活動資金として使用していますが、この上半期は多くの大学・公的研究機関が予算の執行に非常に慎重でした。しかし、8月以降には予算執行の活発化を見込んでいます。

当第2四半期累計期間の連結業績 (単位:百万円)

	前第2四半期 累計	当第2四半期 累計	前年同期比
売上高	3,693	3,557	△ 3.7%
営業利益	519	247	△ 52.3%
経常利益	514	295	△ 42.6%
四半期純利益	273	186	△ 31.9%



通期の業績見通し、今後の業績動向について どのようにお考えですか？

下半期はより積極的な営業・販売促進活動を行うことで、当初予想通りの売上が確保できるものとみておりますが、通期の連結業績は、前期と比べ売上高は横ばい、利益面では大幅な減益となる見込みです。

しかし、政府による日本の成長戦略なども背景に、ライフサイエンス関連市場は今後も着実な拡大が予想されております。この市場の中で当社はより確かな存在価値を高め、業容を拡大し、ライフサイエンス研究を支援する企業としての使命を着実に果たしていきたいと考えております。

通期の連結業績予想 (単位:百万円)

	前期実績	当期予想	前年比
売上高	7,241	7,250	0.1%
営業利益	798	250	△ 68.7%
経常利益	801	403	△ 49.7%
当期純利益	411	303	△ 26.4%

コスモ・バイオの特徴と戦略について



3 コスモ・バイオは、どのような特長を持った会社でしょうか？

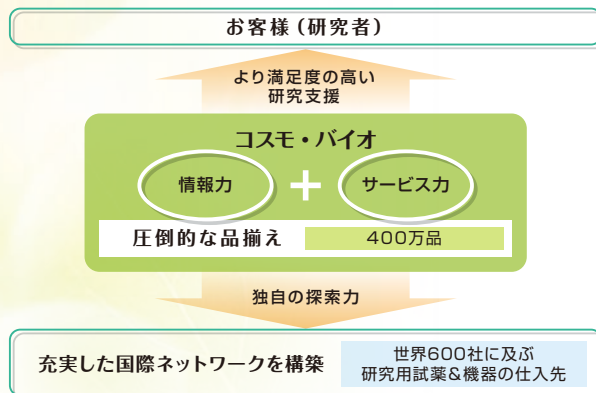
当社はライフサイエンスの「基礎研究」のステージにおいて研究を支援する専門商社です。

一口に「ライフサイエンス」と言っても、その研究活動は非常に専門性が高いため、研究者の数だけ研究分野・テーマが存在していると言っても過言ではありません。また、こうした多岐にわたる研究に活用される試薬や機器を開発・製造するメーカーも、世界中に把握しきれないほど多数存在しています。

研究者は最先端の研究に活用可能な新しい試薬を常に追い求めています。自ら探し当てることは非常に困難です。一方、試薬メーカーは、その多くが小規模なベンチャーであるため十分な販路を有していません。当社の最大の存在意義は、この両者をつなぎあわせること（最適なマッチング）です。そのために、独自の探索力を駆使して独自性の高い商品を供給している仕入先を世界中から見つけ出し、その数は現在、世界600社に及んでいます。この仕入ネット

ワークを背景に、当社は400万品という圧倒的な品揃えを確立しています。日々研究に追われる研究者が、この膨大な商品の中から必要とする試薬を簡単に選定するためにはどうしたらよいのか。この問題解決策のひとつとして当社は、業界に先駆けて独自の商品情報検索システムを開発し、ウェブ上で商品情報を迅速に検索・閲覧できるようにしました。このほか、商品購入前のお問い合わせから購入後のフォローまで、迅速かつ丁寧な対応に努めています。

◎ ビジネスモデル



Clip-1

「公開講座応援団」～

“明日の科学者”にライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝い。



東京工業大学における公開講座の様子

ライフサイエンス研究の将来に向けての長期的な取り組みに対する応援を目的として、大学等が企画・主催する市民向け体験講座に、教材および費用の一部をご提供しています。

■第10回「公開講座応援団」の採択一覧

団体名	講座名
福島大学	福島大学わくわくJr.カレッジ サイエンス屋台村
東京工業大学	バイオの世界を探検してみようー 東京工業大学生命理工学への招待
愛知県がんセンター研究所	高校生向け基礎実験体験講座
熊本大学	遺伝子と仲良くなる！
和歌山工業高等専門学校	世界の化学・生物実験ー Bioluminescence:生物発光ー
帯広畜産大学	食べ物の味について調べよう
お茶の水女子大学 糖鎖科学教育センター	糖鎖のことはじめ「細胞の顔、糖鎖を見よう」
福岡教育大学理科教育講座	植物バイオから広がる不思議な世界
宇都宮大学	動物バイオテクノロジー実験を通じた生命と食の学び講座



4 今後の戦略をどのように推し進めていきますか？

現在推し進めている重点戦略は、

- ① 商品および情報・物流サービスの充実・強化
- ② 自社ブランド力の強化
- ③ 海外展開の推進

の3つです。①は「専門商社」としての機能の更なる強化、②は「メーカー機能」を活かした新たな強みの創出、③は成長の場を海外に広げていく取り組みです。

当期においては、当社グループのメーカー機能を担う子会社(株)プライマリーセルを2013年7月に当社に吸収合併し、当社の研究・開発・製造機関として一体運営する体制としました。これにより、商社として商材を扱うだけでなく、他社との連携も含めて自らが企画・開発・製造するような、“メーカー機能・コーディネータ機能を持った商社”への進化を加速していきたいと考えております。

また、海外展開についても着実に体制強化を推し進めており、海外代理店数は3年前の15社から現在25社体制まで拡充しております。当期は南米初の代理店をブラジルに

設けることができました。

ライフサイエンス研究のすそ野は非常に幅広く、技術革新のスピードが速いこともあり、将来の市場を勝ち取っていくためには注力分野の戦略的設定が不可欠です。当社は近年、「細胞関連」、「RNA関連」、「創薬支援」の3つの分野に注力し、着実に成果をあげております。自社開発品を含めて“コスモ・バイオにしかない”最先端でユニークな商品・サービスを増やし、研究支援に徹するとともに、売上の拡大と利益の安定的増加を図ってまいります。

再生医療をはじめとしたライフサイエンス関連分野での戦略的施策に対する政府予算の重点配分、iPS細胞を取り巻く研究開発の加速など、2013年は「ライフサイエンス成長加速元年」とも言うべき時代の節目となりました。そうした中、当社は、2013年8月に「創立30周年」という経営の節目を迎えました。同時期に迎えた2つの大きな節目を、当社は、次代を築くためのアグレッシブな挑戦をスタートさせる絶好の機会にしていきたいと考えております。

株主の皆様には引き続き、ご支援ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

Clip-2

子会社(株)プライマリーセルを吸収合併。 プライマリーセル事業部を新設し、施設も移転・拡張。

今後、当社独自の製品開発・製造においてさらなる発展を目指すため、当社は、子会社の(株)プライマリーセルを研究・開発・製造機関として一体運用することが最適であると判断。2013年7月1日付で子会社(株)プライマリーセルを吸収合併し、プライマリーセル事業部を新設いたしました。

また同8月、プライマリーセル事業部は、業容拡大に向け施設拡張をすべく、札幌市内の新施設へ移転いたしました。

プライマリーセル事業部
で開発・製造している
主な細胞製品

- ① 脂肪組織関連
- ② 骨・軟骨・歯関連
- ③ 膵臓関連
- ④ 肝機能関連
- ⑤ 筋組織関連
- ⑥ 循環器関連
- ⑦ マクロファージ関連
- ⑧ 皮膚関連
- ⑨ 腫瘍細胞株
- ⑩ その他



プライマリーセル事業部 新施設

特集：医療への貢献 ～ライフサイエンスの可能性～

ライフサイエンスは、私たちの健康な生活に計り知れない恩恵を与えてくれる科学です。

今回は、再生医療やがん、老化などで注目を集めている「医療分野」にスポットをあててご紹介します。

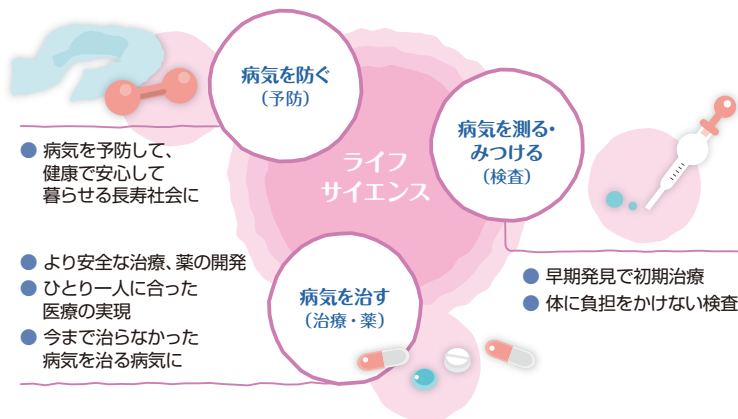


ライフサイエンスは、医療にどんな貢献をしているの？

「治す」、「防ぐ」、「測る」の3つに貢献

医療の進歩は、ライフサイエンス研究の成果があつてこそ。今まで治らなかった病気、予防できなかった病気、みつけにくかった病気が、ライフサイエンスによって、治る病気、予防できる病気、早期発見が可能な病気へと、少しずつ変わってきています。

超高齢・長寿社会の中での人生を、より楽しく健やかに過ごすために、ライフサイエンスはとても頼もしい科学として私たちを支えています。



どんなふうにして、実際にみんなの役に立つようになるの？

医療技術の実用化の入り口は「基礎研究」

ライフサイエンス研究はまず、基礎研究から始まります。その数はとても膨大。その中から新しい成果が得られた一部の研究だけが次の応用研究、そして開発へとつながっていきます。

ひと昔前にはiPS細胞による再生医療などは夢の世界のことでしたが、今では基礎研究や応用研究への確かな一歩を記し始めています。こうした研究の積み重ねがやがて医療に計り知れないほどの恩恵をもたらしてくれる。ライフサイエンス研究は日々、そんな新たな可能性を広げています。





たとえば、どんな研究があるの？

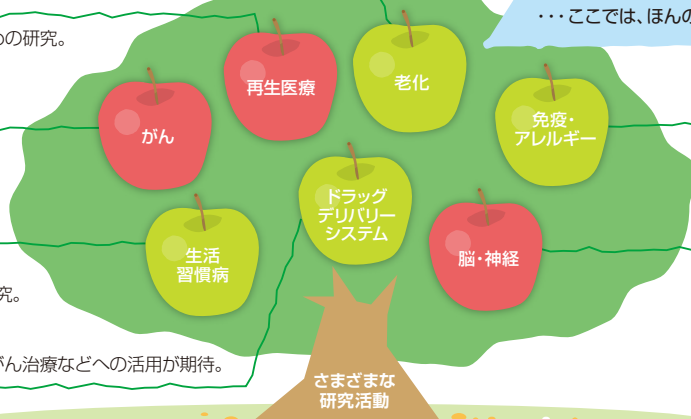
老化のしくみを調べ、老化を防止するための研究。
痴ほう症や白内障等の老化現象の治療技術の開発に期待。

病気やケガを、細胞の能力を使って直すための研究。
既に、iPS細胞を使った角膜の再生や
パーキンソン病への対応などに光明が。

がんの早期発見や悪性度の早期診断、
効果的な薬剤開発、新たなメカニズムの
解明とそれによるがんの撲滅などに期待。

糖尿病や肥満、高血圧、脳卒中などの
生活習慣病の予防や悪化の抑制に向けた研究。

薬を、必要な時に、必要な量を、
必要な部位に、到達させる研究。がん治療などへの活用が期待。



いろんな研究から、
人体のしくみが
次第に明らかになっ
てきているよ！



…ここでは、ほんの一部をご紹介します

アレルギーのメカニズムを解明して、
予防・治療するための研究。
花粉症や気管支ぜんそく、リウマチ、
各種膠原病などの治療に期待。

脳のしくみの解明、
神経性疾患の治療法確立に向けた研究。
認知症、アルツハイマー病、
筋萎縮性側索硬化症 (ALS) などが、
近い将来、治療可能な病気となる可能性が。

やがては難病も“治る病気”に…

世界中でさまざまな研究が活発に行われていますが、その中で、日本は特に再生医療やがん研究の分野で最先端を走っています。日々様々な研究報告がなされており、今後、そうした研究成果によって多く

の難病が“治る病気”になっていくことが期待されます。

こうした成果や可能性がこれからもどんどん増え続けていくように、コスモ・バイオは、基礎研究の支援活動に日々取り組んでいます。

こうした基礎研究を支援するために、
コスモ・バイオは、当社ならではの
商品・サービスの開発・提供に努めています。

当社の約400万品に及び品揃えは、膨大な基礎
研究に迅速かつ的確に対応していくためです。

ここでは、上記に例示した研究活動の一部に対
応した“当社ならではの”の商品をご紹介します。



CD44バリエーション抗体

がんの研究や薬の開発のために、がん幹細胞を集めることができる抗体。



iPS細胞培養用培地

動物由来の成分を含んでいない、iPS細胞の培養に最適な培地。



D-セリン測定キット

アルツハイマー病やALS患者の体内で増える「D-セリン」の量を測るキット。

トピックス



「個人投資家向け会社説明会（東京・大阪）」を開催

個人投資家の皆様に、より当社への理解を深めていただくため、当社では積極的に「個人投資家向け会社説明会」を開催しています。

当期は3月に東京、4月に大阪で開催いたしました。また、10月には本年2度目となる大阪での開催を予定しています。

当社ウェブにて、説明会の資料およびQ&Aが
ご覧いただけます。

ホーム > IR情報 > 個人投資家向け会社説明会

<http://www.cosmobio.co.jp/ir/individual/>



4月に開催した大阪での「個人投資家向け会社説明会」の様子

「個人投資家向け会社説明会」実績



国内独占販売代理店契約の締結

商社としての機能強化をめざして、海外の優れた企業との独占販売代理店契約の締結を図っており、本年はこれまでに3社との契約を結びました。

契約企業名

事業内容

YSL社 (アメリカ) : マルチプレックスサイトカイン測定
試薬の開発・製造・販売

ユニバーセル社 (フランス) : ヒトIPS細胞由来の血管内皮細胞の
開発・製造・販売

グローバル・セルソリューションズ社 (アメリカ) : 細胞培養関連試薬・器材の
開発・製造・販売



「創立30周年記念祝賀会」を開催

創立30周年を記念して、創立月である8月に記念式典を行いました。



創立30周年記念祝賀会の様子

株主の皆様へ

株主様アンケートのお願い

当社では、株主の皆様からいただいたご意見・ご要望を、今後の経営およびIR活動に活かしたいと考えております。つきましては、株主様アンケートを実施させていただきますので、お手数ではございますが、同封のハガキに所定の内容をご記入いただき、ご投函くださいますようお願い申し上げます。

ご回答いただきました集計結果の一部につきましては、当社ウェブに掲載するとともに、次回の株主通信にてご報告させていただきます。

アンケート
メット

2013年12月31日

なお、お寄せいただきました情報は、厳重に管理し、正当な目的以外には利用いたしません。

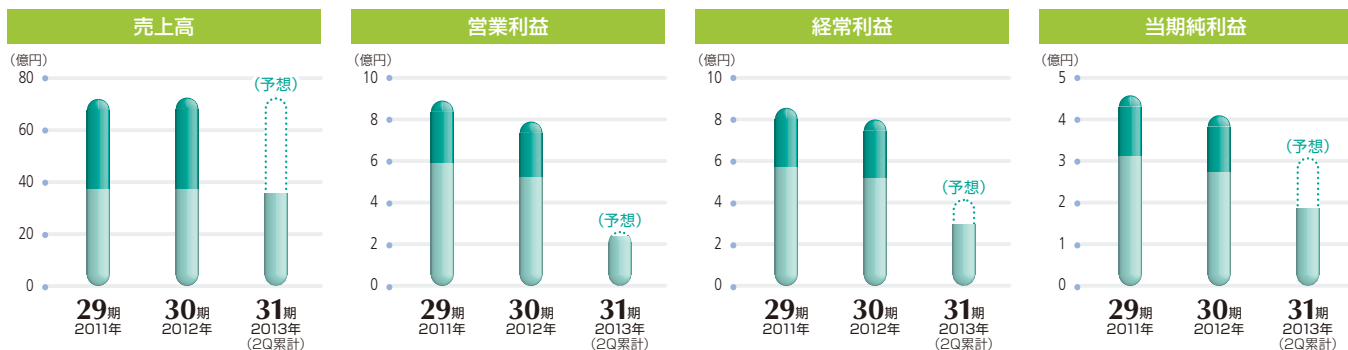
表紙について

地球が育んでいる無数の生命体。私たちコスモ・バイオは、その一つひとつに秘められた無限の可能性を最大化させることで、人と科学のステキな未来へつなげていきます。今回の表紙は、命が「かさなり」あって、未来へど「つながって」いくライフサイエンスの可能性を表現しています。



営業の概況（連結）

● 通期 ● 2Q累計



業績ハイライト

● 市場全体は弱い動きが継続

大学・公的研究機関は予算執行に慎重であり、民間企業では引き続き研究テーマの絞り込みが見られ、バイオ研究関連の試薬・機器市場は全体として依然、弱い動向で推移しました。

● 市場低迷の影響から売上高が減少

新規仕入先・商品の開拓、商品情報発信等の販売促進に努めたものの、市場が低調な推移となったことから、売上高は前年同期比3.7%減となりました。

● 円安傾向による利益減少

円安進行（前第2四半期連結累計期間平均79円/ドル→当第2四半期連結累計期間平均93円/ドル）に伴い仕入原価が増加したことから、営業利益は前年同期比52.3%減となりました。

商品分類別連結売上高



連結財務諸表（要約）および主な連結経営指標

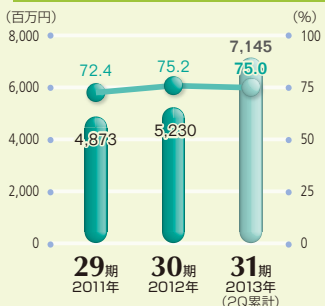
● 貸借対照表

(単位:百万円)

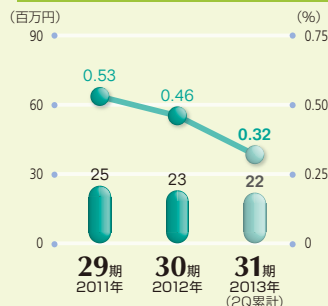
	前期末 2012年12月31日現在	当第2四半期末 2013年6月30日現在	前期末 2012年12月31日現在	当第2四半期末 2013年6月30日現在
資産の部				
流動資産	5,413	5,373	916	722
現金及び預金	1,341	1,715	支払手形及び買掛金	475
受取手形及び売掛金	2,321	1,963	短期借入金	20
有価証券	802	602	その他	420
たな卸資産	836	940	固定負債	317
その他	118	155	役員退職慰労引当金	36
貸倒引当金	△7	△4	その他	281
固定資産	1,541	4,150	負債合計	1,234
有形固定資産	178	176	純資産の部	
無形固定資産	162	135	株主資本	5,192
投資その他の資産	1,201	3,838	自己株式	△67
投資有価証券	862	3,580	その他有価証券評価差額金	△0
関係会社株式	11	11	繰延ヘッジ損益	37
その他	327	248	少数株主持分	490
貸倒引当金	—	△0	純資産合計	5,720
資産合計	6,955	9,524	負債純資産合計	6,955

● 通期 ● 2Q累計

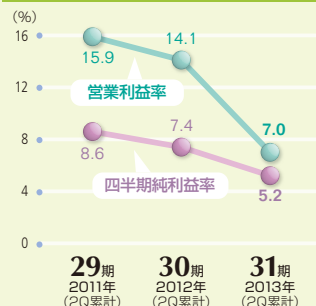
自己資本 / 自己資本比率



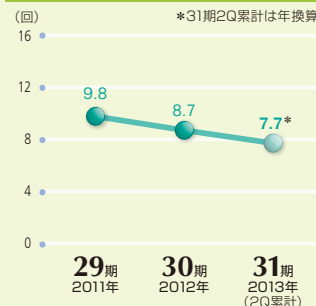
有利子負債残高 / 有利子負債比率



営業利益率 / 四半期純利益率



たな卸資産回転率



One Point! 解説① 健全性

当上半期に上場した会社の株式について時価による評価を行い、その他有価証券評価差額金が17億57百万円増加したこと等により、自己資本は19億15百万円増加して、71億45百万円となりました。自己資本比率は、前期末比0.2ポイント低下したものの75.0%と安定した状態を保っています。また、有利子負債比率は、0.32%と極めて低い水準にあります。

One Point! 解説② 収益力

当社は多くの商品を海外から輸入しているため円安傾向が原価率の上昇を招き、営業利益率は7.0%と前年同期の水準を大きく下回りました。また、当社は在庫品の販売比率向上に努めており、その成果を示す一つの指標となる「たな卸資産回転率(年間売上高をたな卸資産で割ったもの)」は、8回転前後の水準を確保しています。

○ 損益計算書

(単位:百万円)

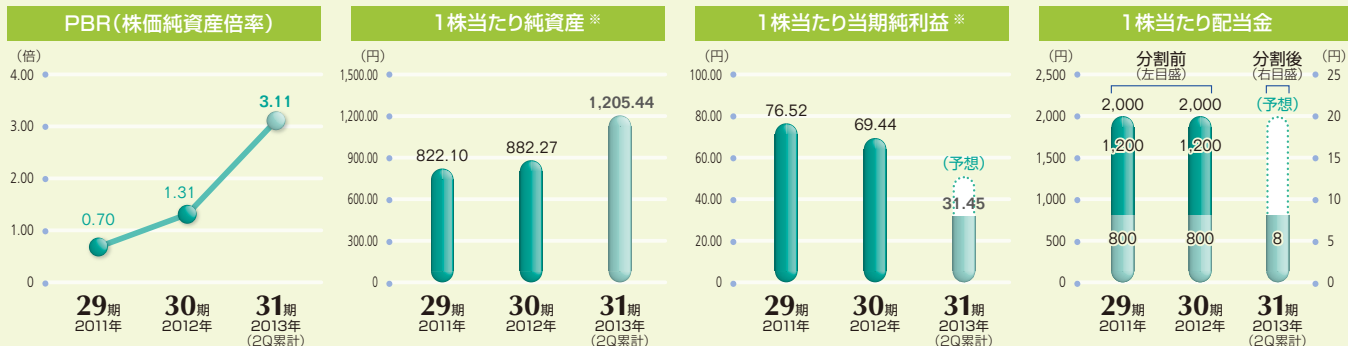
	前第2四半期累計 2012年1月1日～ 2012年6月30日	当第2四半期累計 2013年1月1日～ 2013年6月30日
売上高	3,693	3,557
売上原価	2,032	2,145
売上総利益	1,660	1,412
販売費及び一般管理費	1,141	1,164
営業利益	519	247
営業外収益	23	50
営業外費用	28	2
経常利益	514	295
特別利益	3	9
特別損失	5	0
税金等調整前四半期純利益	512	305
法人税等	222	120
少数株主損益調整前四半期純利益	289	184
少数株主利益又は少数株主損失(△)	16	△ 1
四半期純利益	273	186

○ キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計 2012年1月1日～ 2012年6月30日	当第2四半期累計 2013年1月1日～ 2013年6月30日
営業活動によるキャッシュ・フロー	497	266
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 331	193
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 77	△ 77
現金及び現金同等物に係る 換算差額	2	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	90	384
現金及び現金同等物の期首残高	1,471	1,532
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,561	1,917

(注) 株価は各期の末日終値



※:2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に分割したことに伴い、1株当たり純資産および1株当たり当期純利益を遡及修正しております(当該株式分割が第29期の期首に行われたと仮定して算定)。

One Point!

解説③

株主還元

当社では、株主の皆様への利益還元を経営の重要事項の一つと認識しております。当社の株式を長期的かつ安定的に保有していただくため、安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定すべきものと考えております。

年2回の配当(第2四半期末と期末)を実施しており、当第2四半期末においては、1株当たり中間配当8円にて実施させていただきました。期末配当は12円(年間配当20円)を予想しております。なお、2013年1月1日付で株式分割(1株→100株)を行っており、1株当たりの配当額は前期と同等となっております。

会社概要

(2013年6月30日現在)

商号 コスモ・バイオ株式会社
 設立 1983年8月25日
 所在地 〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 資本金 918百万円
 事業内容 ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、
 臨床検査薬の輸出入及び国内販売
 従業員数 連結：123名 個別：80名

役員

(2013年6月30日現在)

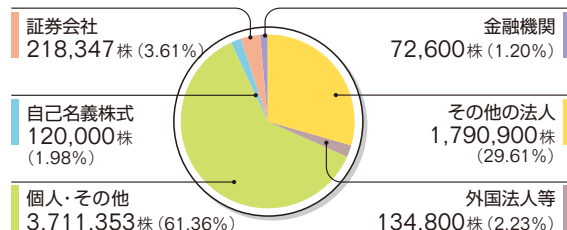
代表取締役社長 笠松 敏明
 常務取締役 鈴木 忠
 常務取締役 櫻井 治久
 取締役 船戸 俊明
 取締役 世良 伸也
 常勤監査役 近藤 直正
 監査役 佐々木 治雄
 監査役 堀米 泰彦

株式の状況

(2013年6月30日現在)

発行可能株式総数.....18,361,600株
 発行済株式の総数
 (自己株式120,000株を含む).....6,048,000株
 株主数.....6,908名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
東京中小企業投資育成株式会社	1,152,000	19.43
コスモプロパティサービス株式会社	576,000	9.72
コスモ・バイオ従業員持株会	208,300	3.51
鈴木 忠	148,000	2.50
田中 知	148,000	2.50
高木 勇次	148,000	2.50
原田 正憲	130,000	2.19
太田 由喜夫	76,100	1.28
船戸 俊明	69,800	1.18
前川 雅美	68,800	1.16

(注1) コスモプロパティサービス株式会社はコスモ石油株式会社の連結子会社です。
 (注2) 議決権比率は、自己株式120,000株を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 定時株主総会 毎年3月開催 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
 公告方法 電子公告 <http://www.cosmobio.co.jp/>
 基準日 12月31日 (ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。)
 剰余金の配当の基準日 6月30日、12月31日 上場証券取引所 東京証券取引所 JASDAQ スタンダード
 単元株式数 100株* 証券コード 3386

* 2013年1月1日付にて、当社普通株式1株を100株に分割すると同時に、100株を1単位とする単元株制度を採用(売買単位は1株から100株に変更)いたしました。

株式に関するお問い合わせ先 ▶ 住所変更等、株式に関する手続き・お問い合わせは、お取引の証券会社へお願いいたします。



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

〒135-0016
 東京都江東区東陽二丁目2番20号 東陽駅前ビル
 Tel. 03-5632-9600 Fax. 03-5632-9613